

## 行事報告

## Report of Events

## 令和7年度静岡大学入学式・情報学部春季保護者会

情報学部学生委員会 吉田 寛

2025年4月4日(金)に、静岡市のグランシップにて静岡大学入学式と情報学部春季保護者会が実施されました。

入学式は実に5年ぶりの全学部統一での式典となりました。保護者も見守るなか、学部生は241名、専攻は今年から新設された領域情報学コース39名を含む95名の新入生たちが、期待を胸に新たな一歩を踏み出しました。

春季保護者会は、予定からすこし遅れて12時すぎより、11階の会議ホール「風」にて1時間程度で開催され、150名以上の保護者の方にご参加されました。小西学部長による挨拶と学部の紹介にはじまり、浜松工業会理事長による挨拶と会の紹介が行われました。続いて、学業(教務委員会)、学生生活(学生委員会)、卒業後の進路選択・就職(キャリア支援室)について、各委員長が説明しました。

また36名の保護者の方がアンケートにご回答くださいました。

静岡県内が44.4%、その他東海が36.1%で、その他全国各地からのご参加をいただきました。ご来場誠にありがとうございました。保護者会への評価では、88.9%の保護者の方から「有意義である」とのご回答を得ました。アンケートの自由記述欄におきましても、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後の情報学部の運営の参考にさせていただきます。



春季保護者会の様子

## 令和7年度新生歓迎合宿

情報学部学生委員会 吉田 寛

2025年4月19日(土)から20日(日)の午前にかけて、愛知県田原市の休暇村伊良湖にて情報学部の新入生歓迎合宿が行われました。合宿形式での実施は昨年度より再開され、今年は情報科学科、行動情報学科、情報社会学科から242名の新入生が参加しました。この合宿は、新型コロナの影響で数年間休止していました。しかし昨年度、情報学部の教職員による調整、そして情報学部の上級生たちによる企画・運営によって、情報学部らしいイベントとして復活しました。

合宿は、往路のバス内のイントロクイズから始まり、休暇村でのバーベキュー、レクリエーションなどの企画が行われました。イベントが進むにつれ新入生たちも緊張がほぐれていく様子が見受けられ、これから大学生活を共にする仲間との繋がりを作ることができたかと思えます。上級生スタッフにおいても、大きなイベントを企画・運営をする大変さや達成感を味わういい機会になり、参加

者全員にとって有意義な合宿になったかと思えます。

合宿後のアンケートには新入生187名が回答し、合宿が自分のためになったかという質問には169名がやや思う・そう思うと回答していました。また、「友だちができた」、「良い思い出ができた」といった感想が寄せられ、合宿の施設・環境・料理に関しても満足・やや満足という回答が8~9割を占めました。教員も含めた参加者の評価も高く、大変好評を博しました。



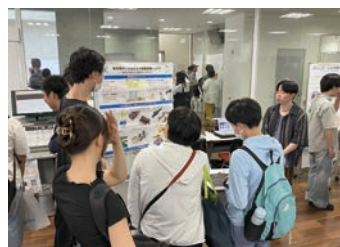
## 2025年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会 望月 美希

令和7年8月4日(火)、夏季オープンキャンパスが開催されました。当日は850名程(受付記録より)の多くの方が来場され大盛況でした。オープンキャンパスは、小西達裕学部長のあいさつに始まり、各学科ミニ講義・入試講演、研究室・授業展示が行われました。ミニ講義は、前川知行先生(情報科学科)による「人工知能の言語能力を最大限に引き出すには?~意味的妥当性判断を題材として」、白砂大先生(行動情報学科)による「Artificial Intelligenceの時代に見るHuman Intelligence」、伊夢瑛先生(情報社会学科)による「わたしたちの生きる情報社会は監視社会?」といったテーマで実際の講義を体験していただきました。入試講演では、各学科教員から過去の入試問題の解答のポイントや、受験勉強へのアドバイスなどが解説されました。研究室・授業展示では、ドローンの操縦体験など体験型展示なども設けられ、情報学部の魅力的な研究が紹介されました。

また、昨年度に引き続き、現役情報学部生によるキャンパスツ

アーも行き、保護者の方含め、多くの方にご参加いただきました。普段はなかなか見ることができない研究室の内部の様子や、浜松キャンパスの歴史紹介など、参加者の方々が熱心に聞き入っている様子が見られました。オンラインの特設サイト(<https://www.inf.shizuoka.ac.jp/opencampus2025/>)では、オープンキャンパス当日の様子について動画を公開しておりますので、是非ご覧ください。



## 未来を拓く知的情報処理の原理 — 機械学習

情報科学科 西田 昌史、野村 祐一郎、前川 知行

現在の情報システムにおける高度な知的処理は、統計学に基づく機械学習技術によって支えられています。ロボット、自動運転、情報検索、金融取引などのシステムを設計・運用するうえで、画像認識、自然言語理解、音声認識、異常検知といった機械学習の原理を理解することは不可欠です。

「機械学習」の授業は、情報科学科および行動情報学科の3年生を対象に、月曜日の1・2限に開講されています。表に示す計画のとおり、全15回の授業のうち前半9回は講義、後半6回は演習で構成されています。これらを通じて、機械学習の基本的な考え方と主要な手法の習得を目指します。

受講生の皆さんが本授業を通じて、さまざまな課題に機械学習の手法を適用し、情報化社会において主導的な立場からデータを活用したシステムを創出することを期待しています。



2025 年度前期「機械学習」授業計画

|     |                    |      |              |      |                     |
|-----|--------------------|------|--------------|------|---------------------|
| 第1回 | ガイダンスと基礎理論         | 第6回  | 強化学習         | 第11回 | 回帰分析とサポートベクターマシンの演習 |
| 第2回 | 線形識別モデル            | 第7回  | 深層学習入門       | 第12回 | ニューラルネットワークの演習      |
| 第3回 | サポートベクターマシン        | 第8回  | 深層学習 1       | 第13回 | 深層学習の演習 1           |
| 第4回 | 主成分分析              | 第9回  | 深層学習 2       | 第14回 | 深層学習の演習 2           |
| 第5回 | 混合ガウスモデルと隠れマルコフモデル | 第10回 | Python の基礎演習 | 第15回 | 生成 AI の演習           |

## 実践を通じて基礎から応用までを学ぶ「データ処理プログラミング」

行動情報学科 4年 宇佐美 翔大

「データ処理プログラミング」は、Python を用いてプログラミングの基礎から応用までを実践的に学ぶ授業です。具体的には、for 文などの基礎的なプログラミングから、発展的な機械学習手法まで学ぶことができます。受講者はプログラミングを日常的に行っている学生から、講義で初めて学ぶ学生まで様々ですが、講義を受ける、演習問題を解くという反復を繰り返すことで段階的に学習でき、自分のペースで着実に習得できる構成が大きな特徴です。また、講義の冒頭には小テストや実技試験を設けることで、継続的な学習が可能です。私は TA（ティーチング・アシスタント）として、環境構築の補助や演習時の質問対応などを行っています。質問対応では、単にコードの修正方法を伝えるだけでなく、エラーが発生した原因まで理解してもらえるように、一緒に考える姿勢を心がけています。また、演習問題に取り組む際は、代替的なアプローチや改良の可能性を考えるような声掛けを行い、学生がプログラミングにおける工夫の面白さと技術的成長

の喜びを実感できるよう努めています。学生たちが困難を乗り越えながらスキルを磨き、プログラミングの面白さを実感する過程を共有できることに大きな意義を感じています。



## 企画1000本ノック!?でメディアの達人になる — メディア制作演習

情報社会学科 杉山 岳弘、丸山 友美

メディア制作演習は、表現する面白さと作品制作の難しさを学ぶ演習形式の授業です。映像班と雑誌班に別れて活動しますが、どちらの班の学生もすぐに壁にぶつかります。「企画の趣旨が伝わらない」「自分たちらしい企画になってない」「というか、そもそも企画ってどう考えるものなのか」そんなふうにして学生は、自分たちが普段何気なく消費しているメディアコンテンツがどのように生み出されているのか考えるようになり、消費者としてではなく「生産者（送り手）」としてメディアと向き合い始めます。



どこかで見た誰かの企画をただ真似するのではなく、情報社会学科の学生だから提案できる企画はどんなものがあるだろうか。そんな「企画1000本ノック」から生まれた至極のアイデアは、2025 年度前期は全部で9つ。映像班からは、「夜のお菓子ってナンだ?」、「弁天島の歴史を徹底調査!」などの企画が、雑誌班からは「恋愛情報学入門!」、「チャリで来た。(空きコマ ver.)」などの企画が考案され、取材交渉とロケ、編集と校正を経て作品は完成しました。そして、さらなる高みを目指したい学生に向けて、2026 年度前期に新科目「メディア実践」を開講します。次はどんな作品が生まれるのかご期待ください。



## 健康社会の実現に向けて

情報社会学科 窪 優太



2025年3月に情報学部情報社会学科に講師として着任いたしました、窪優太(くぼゆうた)と申します。専門は「健康科学」と呼ばれる分野で、人の健康を増進するための研究を行っています。

私は以前、病院に入院している方のリハビリテーションに携わっていました。その経験の中で感じた疑問をきっかけに、研究の道へ進みました。現在は主に、

地域で生活されている高齢者の健康増進を目的とした研究に取り組んでいます。健康に関する分野の中でも私は特に、「栄養」に関する研究を中心に行っています。栄養は多すぎても少なすぎても健康に強い影響を与えてしまいます。そのため、高齢者の栄養状態を良好にする方法を模索しています。

静岡大学情報学部の先生方や学生の皆さんは、私の持たない知識や技術をお持ちです。そのため、皆様のお力をお借りしながら、新しい健康増進の方法を確立していきたく考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 情報技術を活用した学習支援

情報科学科 山本 頼弥



2025年3月に情報学部情報科学科に着任いたしました、山本頼弥(らいや)と申します。専門分野は教育工学で、特に学習支援システムの構築に関する研究をしています。本研究では、学習者の動きとなりうるポイントや教育現場での課題などを整理し、それを踏まえてシステムの設計・実装・評価を行います。そして、その中で得られた知見や気づきに基づきシステムを改善

していきます。

現在は主に、プログラミング学習支援と防災学習支援の二つのテーマに取り組んでいます。プログラミング学習支援では、初学者向けデバッグ学習支援環境の構築を中心に研究を進めています。防災学習支援では、XR技術などを活用し、学習者の実生活空間と結びつけた防災学習支援システムの構築を目指しています。

今後は、引き続き研究成果を蓄積することはもちろんのこと、研究で得られた情報技術活用に関する知見を活かして情報学部の教育に貢献できたらと思っています。



## 大学院情報学専攻リニューアル

## Graduate Programs

### 大学院(修士課程)情報学専攻が強化されました

情報学部 学部長 小西 達裕

総合科学技術研究科・情報学専攻を中心とする教育プロジェクト「情報学の深化・汎化を通じた静岡大学高度人材育成プログラム」が、2023年9月に『大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)』に採択されました。この事業によって情報学専攻の学生定員は従来の1学年60名から85名に増員となり、また基盤情報学コース(定員50名)と領域情報学コース(定員35名)の2つのコースが設置されました(領域情報学コースについては下の記事もご参照ください)。新コース設置にともない、社会の第一線で活躍する複数の技術者・実務家を新たに特任教員として迎え、より一層実社会の先端的動向に即応した授業・セミナー・研究指導を行えるようになりました。また最先端のAIサーバ計算機を導入するなど教育設備の充実も進めています。新しい情報学専攻にご期待ください。

### 領域情報学コース科目の内容と意義

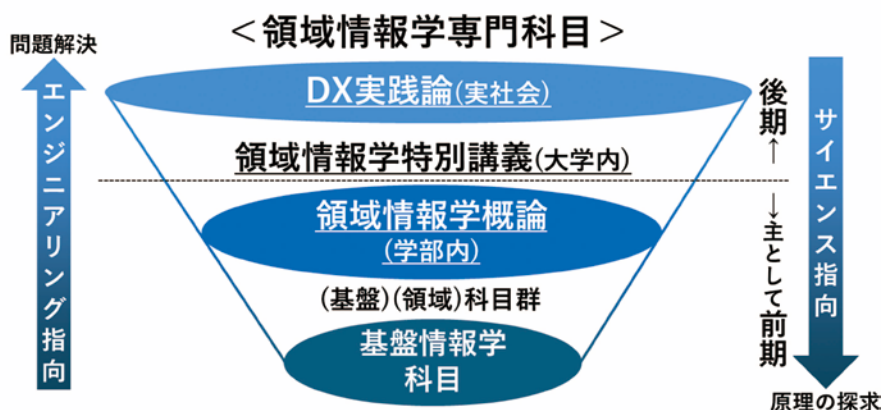
大学院新カリ WG 長 高橋 晃

領域情報学コースでは、実社会や現場に近い応用的な側面を扱う新しい視点をもったカリキュラムを構成しています。

具体的な新規科目として、前期科目「領域情報学概論」や後期科目「領域情報学特別講義」「DX実践論」が挙げられます。これらの科目は、各担当の先生方における「領域情報学」を講義していただくものです。「領域情報学概論」は情報学部内の先生方、「領域情報学特別講義」は静岡大学内の他の学部の先生方、「DX実践論」は大学外の特任教員の先生方に各々お話をさせていただきます。これらの講義はすべてオンデマンド資料としてまとめられる予定です。

「領域情報学」の概念自体が未だ定まっていないこの時代において、これらの科目は時代の先端を開拓するものと言えるでしょう。

## 領域情報学コースの科目構成



## 令和7年度 キャリア支援室の取組み

情報学部キャリア支援室 佐治 斉

情報学部キャリア支援室は、情報学部と大学院情報学専攻の学生の就職・進学を含む進路の支援を行う組織です。5名の教員とキャリア支援専門事務職員の計6名で構成されており、年2回の進路ガイダンス、企業・官公庁との情報交換、インターンシップや採用に関する情報収集と学生への情報配信、就職資料室を活用した企業情報提供、および学生個別の対応などを実施しております。このうち進路ガイダンスでは、我々のみならず、就職情報サイトに関係する企業の力もお借りし、学生を集めて就職活動やインターンシップに関する説明を行い、各学生の進路選択への興味・関心を高めるよう努力しております。また、進学に関しては、学部生の約3割以上が大学院に進学しており、今後も進学率が上がる傾向にあり、時代に合わせた支援を行っています。

最近、企業側の採用活動が早期になり、またコロナ以後、オンラインで説明会や面接等が行われるようになり、学生の積極性が

求められるようになってきました。これを踏まえ、キャリア支援室でも、オンラインでの情報検索や企業との面接ができるよう、学部内のスペースに専用の個人ブースを設置し、状況に合わせた環境を提供しています。これからも、時代の変化を見据えた学生支援を続けていく所存です。



就職資料室前掲示板



就職資料室内

## 学生生活

### 部活紹介 ラジオの可能性を信じて！

情報社会学科 4年 金子 侑生

こんにちは、静岡大学放送研究会Cue-FM浜松です！  
私たちは主な活動として、ラジオ番組「SHIZUDA VOICE!」を地域のラジオ局にて制作、放送してきました。企画から取材、収録、編集、そして配信までほとんどを学生の力で制作する全国的にも稀な体制で、遠州地方の魅力を学生の目線からお届けしています。

部員には情報学部の学生も多いことから、SNSやポッドキャストなどを通じて、若い世代にも地域の魅力を伝えることを目指しています。ラジオという地域密着型メディアを媒体とすることで、地域の人のつながりの創出と、地域の魅力を再認識できる場になると感じています。また、地域の皆さんの多大なご協力により、放送開始から2周年を迎えました。

…そしてこの秋、新体制へと切り替え、【リニューアル】を予定しています！ぜひ生まれ変わった私たちの番組に、耳を傾けてみてください！



### 留学生の声 留学二年目の大学生活

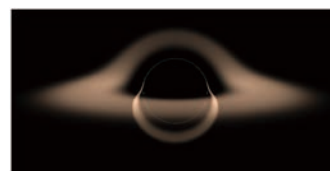
情報科学科 2年 イェーミンウー



ミャンマーからABP留学生として来日し、今年で2年目を迎えました。専門は理論物理学で、主に量子物理学と重力の関係を研究しています。4年前を振り返ると、私にとって留学は遠い夢でした。まさか日本で研究することになるとは想像もしていませんでした。人生は予想もしない出来事の連続で、戸惑うこともありますが、その一つひとつを経験として受け入れながら、

少しずつ歩んできた道が今の自分に繋がっていると感じています。

研究や授業に追われる日々の中、日本人学生と留学生の交流会にも参加しています。いろいろな国の留学生と日本の学生が集まり、趣味や文化の話で盛り上がります。静岡のおすすめのスポットも教えてもらったり、日本の文化に触れたりする中で、留学生活はさらに充実したものになりました。留学は学だけでなく、人との出会いや新しい価値観に触れる貴重な機会だと実感しています。これからも、これらの経験を大切に、自分らしく歩んでいきたいと思います。



## 情報学部は30周年を迎えます

情報学部 30 周年記念事業委員会 笹原 恵

情報学部は1995年10月に発足し、翌1996年4月から学生を受け入れており、今年10月で30周年を迎えます。当初は情報科学科、情報社会学科の2学科体制でしたが、2016年に行動情報学科を開設し、現在の3学科体制になりました。これまで5千人以上の卒業生を輩出しており、各界で活躍しています。記念事業として、記念式典の開催（2026年7月18日を予定）や30周年記念誌の発行、また寄付金の募集などを予定しています。今後、学部のウェブページなどでご連絡いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



情報学部広報紙  
MOVE 1996年号



1期生の授業の様子



2000年当時の教員(上)、情報学部第1期生(中:科学、下:社会)いずれも、情報学部第1期生卒業生アルバムより